

第7回交通ワンチーム部会 議事録

日 時： 令和6年2月27日（火）15：00～16：15

場 所： 富山県民会館4階 401号室

出席者： 委員名簿のとおり

1 開会

2 挨拶

●田中部会長

皆さんこんにちは。本日、第7回交通ワンチーム部会を開催したところ、大変お忙しい中ご出席いただきありがとうございます。またオンラインでのご参加の方もありがとうございます。

はじめに、令和6年能登半島地震におきまして、被災された方々に心よりお見舞いを申し上げますとともに、地域交通サービスの運行の早期再開、安全確保にご尽力いただいた関係者の皆様に心より感謝申し上げたいと思います。

さて、県では一昨年6月に、この地域交通戦略会議を立ち上げ議論を重ねて参りました。約1年8か月検討を進めてきたわけですが、ご案内の通り先週の20日、戦略の最終案を地域交通戦略会議に諮り了承をいただき、この地域交通戦略をとりまとめたところでございます。

今後、地域交通戦略を実行に移す段階に入っていきますが、その際には、県はもとより、市町村、事業者の皆様と、より連携を図り、ともに目標に向かって公共交通の利用を促す機運の醸成などに取り組む必要があると思っております。また多くの県民の皆様にも公共交通の利用等、「参画」いただき、交通ワンチームの名の通り、皆さんワンチームとなって進めていく必要があると思っております。

本日は戦略がとりまとめられたということで、早い段階で、皆様方にも情報共有を図りたいと思っております。また新聞報道等されておりますが、併せて県予算も発表しているため、より詳細に市町村の皆様にも情報を共有させていただきたいと思っております。

また、市町村の中には、法定の地域公共交通計画の策定に取り組んでいる自治体の方もいらっしゃるため、その内容も含め、今日は幅広く意見交換・情報交換していきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

3 議事

(1) 富山県地域交通戦略について

●田中部会長

それでは、今ほど冒頭の挨拶でも申し上げましたが、20日にとりまとめられた地域交通戦略の内容、また今後の取組み、令和6年度当初予算案の概要について、一括して事務局から説明をさせていただきたいと思います。それでは事務局よろしく願いいたします。

●事務局

(資料1、資料2、資料3、資料4、資料5に沿って説明)

●田中部会長

ありがとうございます。今ほど戦略のとりまとめなどご説明させていただきましたが、この戦略のとりまとめに当たりましては、私の隣に座っております中川地域交通政策監にもいろいろ助言いただいているため、中川政策監からも、戦略についてコメントをお願いしたいと思います。

●中川地域交通政策監

お疲れ様でございます。中川でございます。

有田課長の方から内容を非常に詳しくご説明いただきましたが、この県の地域交通戦略の内容は、やはり発想が斬新と言いますか先進的だと、他地域からも注目をされている状況にあると認識しております。マスコミの方々からもそうですし、学会や研究者の中でも、これまで各都道府県が作ってきた計画と比べて、発想が相当斬新である、変わっているという点も含めて、評価されていると感じています。

やはり最も重要なことは、「地域交通は公共サービスである」と明記したことです。これは当たり前といえば当たり前で、みんな何となくそうだと思ってきたかもしれませんが、実質的にどのような施策が行われてきたかという点、あくまで公共交通は事業者が実施する事業で、行政はそれを側面から支援をするという発想だったわけです。そうではなく、明らかに自治体が主体となり、側面支援という発想から、自らの地域に対する「投資」であると明記したということで、大きな発想転換だと思われれます。

日本を除く、ほぼすべての先進国はもともとそのような考え方だったのですが、日本だけがなぜか、一部の地域で公共交通の採算が成り立ってきたために、そのような発想に陥ってきたのかもしれませんが、しかし、地域のことを考えれば、公共交通が非常に重要だということは当然のこと、それを計画の中に明記したということで大変注目されていると感じております。

そのように発想そのものから変えていく中で計画ができたため、やはりこれから重要なのは、いかにしてこれを実施に結びつけていくかということだと思います。そのため、まずいろいろなプロジェクトのアイデアを立てることが重要だと思いますし、さらに財源を着実に用意しながら進めていくことが重要だと思います。この財源もやはり、考え方そのものが変わっているため、これまでは、赤字のため補填する発想で

公共交通への公費の投入がされてきたかもしれませんが、そうではなく、更に便利に、より良いものにするために、積極的に公費を投入しようという発想に変わっています。今日県の予算の内容もご説明させていただきました。これらのすべてが市町村の財源とも連携しながら一緒に進めていく形になっているため、市町村からも積極的にご提案・参画いただけると、これらのプロジェクトがより良く進んでいくと考えられます。

また国の方も公共交通には熱心になり始めていると感じています。より積極的に取り組んでいる地方に対しては、国も積極的に応援していく姿勢が感じられるようになってきていると思います。そのため、ぜひ、市町村あるいは事業者からも、いろいろな提案をいただいて県と一緒に、国のお金を引き出していくという方向に進んでいけば良いと思います。

他の地域に先駆けて、公共交通を便利していくことで、地域間の競争力を高めていくことが重要だと思いますので、これからも連携しながら進めていければと思います。

●田中部会長

ありがとうございます。

それでは質疑応答・意見交換に入って参りたいと思いますが、その前に参考資料2として、県バス協会で作られたとやまロケーションシステムのPR資料もお配りしております。この内容について、バス協会の小竹委員からご説明、ご紹介をお願いいたします。

●小竹委員

バス協会でございます。いつもありがとうございます。

資料の通り、バスの現在位置がわかるとやまロケーションシステムをPRするため、このたび、運輸事業振興助成交付金を活用しポスターを作成しました。住民の皆様方の目につきやすい場所に掲出していただきたく、市町村の皆様はこのポスターを2枚ずつ、県を經由して配付させていただきました。ぜひよろしく願いいたします。

そこでお願いですが、各市町村で運行するコミュニティバスにポスター枠がある車両とない車両があると聞いております。もしポスター枠が空いている車両があれば、ぜひそこに掲出いただきたくと考えております。我々の会員事業者が運行受託しているバスであれば、当協会からポスターを配布するという事もできます。それ以外の市町村独自で運行しているコミュニティバスについても、もし空き枠があれば、私どもの方から送付して掲出していただければと思っておりますがいかがでしょうか。

黒部市は会員事業者ではないところへ事業を委託しているということですが、いかがでしょうか。

●黒部市

黒部市では基本的には運行事業者でバス事業を実施しておりまして、バス協会会員

事業者であれば対応していただけたらと思いますが、空きがあれば私どももお声がけさせていただきます。

●小竹委員

お声がけいただければ私どもで補足します。小矢部市は運行事業をどのようにされていますか。

●小矢部市

車両管理も運行も石動タクシーにお願いしているため、調整をかけてお声がけさせていただきます。

●小竹委員

バスの利便性を図るということで、ご連絡いただければポスターを送付し、富山県全体にできるだけ幅広く、強くPRしていきたいと思います。

そのほのか市町村の方ではいかがでしょうか。我々会員事業者が運行しているバスであれば、ご了解をいただければ私どもの方からポスターを配布できます。

富山市はどうでしょうか。

●富山市

一度確認させていただきます。改めて相談させていただきます。

●小竹委員

できれば広くPRしたいと思いますのでよろしくお願いします。

●田中部会長

ありがとうございます。

今ほど説明ありましたが、事業者、また市町村、自治体間連携が非常に大事であるため、ご協力をいただければと思います。お問い合わせはバス協会の方にご連絡いただければ対応できると思いますので、広く県民の皆さんにこのような便利なシステムがあるということを、ぜひ周知を図っていただきたいと思います。

(2) 質疑応答・意見交換

●田中部会長

それでは、今ほどの説明も含めまして県予算案、地域交通戦略の内容についての質問・意見、何かありましたらご発言いただきたいと思います。

交通事業者の方は、20日の会議にご出席いただいておりますが、市町村の皆さんとの連携、ワンチームということが重要であるため、本日はすべての市町村の方にご登

言をお願いしたいと思います。

●富山市

富山市交通政策課の吉崎と申します。よろしくお願いいたします。

資料3、富山県地域交通戦略の5ページに、計画の位置付けが書いてございます。その中に市町村の計画について、整合・連携を掲げていただいているため、私からは本市の計画策定の状況についてご報告させていただきたいと思います。

本市では、昨年度より2か年をかけて、人口減少の本格化や、少子高齢化の進行等の社会情勢のもと、新たな技術の活用を含め、公共交通のさらなる活性化を図り、コンパクトなまちづくりを深化させるため、富山市総合交通計画の策定作業を進めております。

計画の策定については、法定協議会である富山市都市交通協議会にて審議を進めておりましたが、直近では2月16日に、本日ご出席の複数の委員の皆様にもご出席いただき、第39回富山市都市交通協議会を開催し富山市総合交通計画案について、了承いただいたところでございます。

本計画では、「都市アセットである公共交通を多様な関係者との共創により刷新し、コンパクトシティを深化」を基本方針に掲げ、3つの取組方針のもと、全56の施策をとりまとめております。

本市としては、鉄道やバスなどの公共交通は、市民の生活や経済活動に必要不可欠な社会インフラであること、また、公共交通を軸とした、拠点集中型のコンパクトなまちづくりを進める上でも、欠かすことのできないまちの装置であると考えております。

今後も引き続き、公共交通の活性化に積極的に「投資」し、計画に掲げた施策を着実に推進して参りたいと考えており、関係者の皆様方には、一層のご理解とご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

●高岡市

高岡市でございます。いつもありがとうございます。

本市におきましても、地域公共交通計画の策定に向けた取組みを、本日ご出席の、事業者の皆様のご協力もいただきながら進めてきたところであり、2月に開催した協議会において、計画の内容についてご承認いただいたところです。

本市としては、鉄軌道や路線バスといった骨格的な公共交通の維持と、これらを市民協働型、地域が主体となった地域交通システムによって、市域全体の移動利便性を高めていきたいと考えており、これを柱として、持続可能な公共交通ネットワークを構築したいと考えているところです。

また、国や県の交通戦略の方向性と軌を一にするような形で、地域交通サービスを公共サービスととらえ、「投資」と「参画」により、公共交通の維持活性化を図ることとしております。

このほか、利便性の向上とともに、持続可能な仕組としていく必要もあることから、間もなく開催される3月市議会におきまして、地域公共交通維持活性化基金の創設と基金への積み立てについて提案することとしております。加えまして、交通人材や運転手不足の現状に鑑み、担い手の確保に向けた支援策を盛り込んでいるほか、万葉線への交通系ICカードの導入支援や、北陸新幹線敦賀開業、北陸DCを見据えた施策なども計上しているところです。引き続き、事業者・市民の皆様とともに、公共交通の維持活性化、まちづくりと連動した地域公共交通ネットワークの確立に向けて、取り組みを進めていきたいと考えております。以上でございます。

●射水市

射水市生活安全課の水島と申します。よろしくお願いたします。事業者の皆様方にはいつもお世話になっております。

射水市では来年度、地域公共交通計画の策定を予定しており、今年度につきましてはアンケート調査を実施したところでございます。

本市におきましても、これからの2024年問題等による運転手不足、また担い手不足等の問題もあり、公共交通を維持していくことが、相当難しい状況にもなってきていると感じているところであります。このことから新しい計画を策定する上では、今後どのような形で公共交通を、持続可能なものとして維持していくかも含め、検討していきたいと考えておりますし、昨今のDXを活用した新たな交通形態も考えながら、今後どのような地域交通ネットワークを策定していくかも含め検討して参りたいと思っております。また皆様方のお知恵を拝借したいと思っております。今後ともよろしくお願いたします。

●田中部会長

ありがとうございます。今後策定ということで、今ほど説明した富山県のこの戦略も、大いに参考として整合も図っていただき、取り組んでいただければと思います。よろしくお願いたします。

●魚津市

魚津市都市計画課の牧といいます。よろしくお願いたします。

魚津市では、令和2年3月策定の魚津市立地適正化計画がございまして併せて、魚津駅・新魚津駅周辺まちづくり基本構想も策定しております。

魚津駅の周辺には飲食店やショッピング、宿泊施設、あるいは居住施設などがございまして、そのような駅を核とした周辺エリアの賑わいづくりを掲げ、取り組むこととしております。

そこで最も大きな課題としては、魚津の駅前について、非常に交通が煩雑になっているということ、そして魚津駅と線路を挟んで海側に地下道があり、非常に湿気が多いこと、暗いことが挙げられております。これらの課題について、地域のワークショ

ップや、専門家のご意見等も伺いながら、現在まで進めてきたところでございます。

そのような中で、いよいよ令和6年度から、年度の途中になるかと思いますが、魚津駅前広場の地下道の整備工事に着手する予定です。この地下道線の整備にあたっては、市内の高校に出向きまして、どのようなものが良いか、賑わい創出はどうしたらいいかなど、インターネットのアプリを使いながら、スマホでもできるようなものを作り、高校生等に投票してもらう形で進めてきたところでございます。

また、この魚津駅は市民バス10系統すべてが乗り入れており、交通結節点としての窓口になっているところでございます。市民バスにつきましても、利用者の増加を期待するとともに、利用実態等も検証しながら、DXやGXなど新たな取組みも令和6年度から少しずつ実施するというところで進めているところでございます。

魚津駅を中心としたこのような取組みが人々の交流や賑わい創出の場に繋がるよう進めていくこととしているため、今後とも、このような場でご指導いただければと考えているところでございます。以上です。

●田中部会長

ありがとうございました。戦略でも駅とまちづくりの関係、重要性についてもいろいろとお示ししているため、また、それも踏まえて対応いただければと思います。

●氷見市

氷見市でございます。よろしく申し上げます。

本市では計画を昨年の9月に策定しており、同じく駅を中心としたまちづくりや持続可能な交通網の構築を掲げております。まちづくりの面で言いますと、現在進行中ですが、駅前のロータリー、道路拡充などの駅前整備を実施しており、今年度中の完了を目指しているところでございます。

また、従来から駅前から氷見番屋街までを「まんがロード」と位置付け、アニメのキャラクターのモニュメント等を整備しており、来年度の予算では、駅前にキャラクターが入ったウエルカムボード等を設置したいと要望しているところでございます。

また、市街地を運行している市街地周遊バスについて、令和6年度に経年劣化に伴いバスを更新する予定としており、キャラクターのラッピングを施し、こちらの方も併せてリニューアルをしたいと考えております。

一方で、まちづくりと並行して、交通弱者の方の生活の足を守るという観点から、地域のNPOによるバスを本市の有力な交通手段の柱の1つとして、運行しております。しかし、人口減少や少子高齢化に伴い、運行するNPOも高齢化が進み、利用者も減っているため、今後持続が厳しくなると予想されることから、市とNPOの事業者で、今後の方向性について協議会で協議を進めておりました。先月1月に、その取組みについて、基本方針の方を策定し、今後の地域NPOバスの持続性の確保や現在空白地となっている地域でも、NPOを立ち上げ、この仕組みに参加しやすい取組みを、基本方針として掲げたところでございます。

今後ともまちづくりと地域の足を守るという両面から取り組んでいきたいと考えております。以上でございます。

●滑川市

滑川市生活環境課の相沢と申します。お世話になっております。よろしくお願いいたします。

本市の交通計画については、令和4年度末に策定をしており、現在、計画に定めた各種事業を進めているところでございます。計画の柱の中で、福祉やまちづくりなど、他の施策との連携を今後図っていきたいと掲げております。

市内のコミュニティバスについても、運営が厳しくなっているということで、来年度からはAIを活用したバスについての具体的な検討を始めたいと考えておりますが、やはり主な利用者である高齢者や学生に対する施策をいかに位置付けていくかが今後の課題であり、きちんと整備をする必要があるところと思っております。

少し話がずれますが、昨年本市がバスを購入する際、主な利用者層となる市内の高校生の方に、市内の公共交通についてお聞きしたところ、通学で鉄道を利用している方もおられましたが、多くの方が公共交通を使ったことがない、しかも生まれてからバスに乗ったことない状況でした。そのような方々にバス、鉄道を含めた公共交通について関心を持っていただくのも難しいと思っておりましたが、何よりもまず何らかの接点を高校生の方と作りたいということで、バス2台のラッピングを滑川高校にお願いしたところであります。

生徒の反応を聞きましたら、今回ラッピングのデザインを考える中で、友達も含めて、このようなバスが走っているのだと興味を持ったという感想もありました。そのため、できることから少しずつ、市民、学生の方に、市内の公共交通についての関心を持っていただき、できれば利用に結びつけることも今後進めていきたいと考えております。

今後、様々な取組みをする中で、先ほどご説明いただいた県の各種支援等の活用についても、ご相談させていただくこともあるかと思っておりますが、その際はまたよろしくお願いたします。以上でございます。

●田中部会長

ありがとうございます。公共交通の関心を高めてもらうということで、本日説明した県の予算案にも、そのような取組みが書いてございますので、ぜひ市町村の皆さんとともに取り組んでいければと思っております。

●黒部市

黒部市都市計画課の山崎です。よろしくお願いいたします。

本市では令和2年に地域公共交通網形成計画を策定し、今年度、地域公共交通計画へ移行させるということで策定しております。基本理念を「出かけてたのしいまちを

育み 地域が一体となってまもり育てる 未来へつながる公共交通」と市民の方にもわかりやすい基本理念を掲げ、現在、策定を進めております。

本日ご参加いただいている国、県、交通事業者にもご参加いただき、2月の法定協議会にて素案について了承いただき、パブリックコメントを実施し、今年度策定予定となっております。また黒部市立地適正化計画も、今年度策定を目指し進めております。

今回、県の地域交通戦略の「投資」という言葉は本市としても大変ありがたい話であると認識しております。本市の方では鉄道を軸とした交通網を整備しておりまして、鉄道については、あいの風とやま鉄道、富山地方鉄道にそれぞれ多くの課題があり、当然バス路線についても、各路線、課題を持っている状況で、今後、策定した計画に基づき、各種施策を実施していきたいと考えております。

来年度につきましては小型電動カートの実証運行を行うため、購入する予算を計上しているところであります。

引き続き、他のバス路線等も含めて見直しを進めて参りたいと考えておりますので、また引き続きよろしくお願いたします。

●砺波市

砺波市でございます。

今日示された概要、地域交通戦略も非常によくまとめられていると感じます。特に先ほど言われた「地域に対する投資・参画」ということが盛り込まれたところは画期的だと思うため、我々としても、市民、地域住民の意識づけなど、浸透されるよう周知も図って参りたいと考えております。

本市においてはこの4月に公共交通の再編ということで、市営バスはJRに接続するダイヤの改正と路線の再編を行うことにしております。それにより、朝晩は市営バス、日中の移動はデマンド、そしてスクールバスの充実も図るということで、棲み分けをしながら、最適化を図って参りたいと考えております。

また市民・地元の事業者も「参画」の上、実施していきますが、また公共交通の民間事業者さんとの共生という面も、非常に大切な観点だと思うため、それも含めて最適化を図っていきたいと考えておりますし、今後地域間の連携もあるとすれば市域を跨ぐ交通の関係についても、調査・研究が必要となると考えております。以上であります。

●田中部会長

ありがとうございます。公共交通の「参画」ということで、ぜひ住民への周知もお願いしたいと思っております。

●小矢部市

小矢部市でございます。

本市では今年度、現行計画である第2期小矢部市地域公共交通網形成計画の後継計画となる小矢部市地域公共交通計画の策定に取り組んでおり、法定協議会である小矢部市地域公共交通活性化協議会において4回にわたる協議を重ね、計画案の策定に至り、現在パブリックコメントを実施しているところでございます。

計画の中には、「地域ニーズに対応した公共交通ネットワークの再構築」など、3つの基本方針、そして9つの施策、35の取組みを掲げたところでございます。このような取組みの中で、重点的な取組みをご紹介しますと、この地域公共交通計画の策定に併せて並行して取り組んできた、AIオンデマンド交通「チョイソコおやべ」の本格導入、これを主体とした市営バスの再編でございます。

現在AIオンデマンド交通につきましては、実証運行を何とか遂行できており、おかげさまで本格導入、本格運行への目途もつき、地域公共交通計画の中にも盛り込むことができたところでございます。

また、その他の新たな取組みとしては、高校生向けの通学割引の導入による民営乗り合いバスの利用促進、また小学生などを対象とした公共交通の乗り方教室、民営乗り合いバスのお試し乗車事業など、これはバス事業者にもご協力いただきながら、今後展開して参りたいと思います。このように、過度に自家用車に頼らない、自発的な公共交通利用の意識醸成に向けて、この計画に基づき新年度から取り組むことを予定しているところでございます。

この点は今回ご案内のあった富山県地域交通戦略が掲げる「参画」の部分にも関わってくるものと考えており、地域交通を中心としたライフスタイルの転換を図るため、利用者として、市民に「参画」いただきたいと考えているところでもございます。また、目標数値としても掲げておられる、県民1人当たりの地域交通利用回数の上昇、これらにも寄与できるものと考えているところでございます。

それから先ほどご案内がありました富山県の新年度予算案にも計上されている各種の参画関連事業とも今後しっかりと連携をとらせていただきながら、今後とも県民や市民の地域公共交通に対する「参画」を促進して参りたいと考えているところでございます。以上でございます。

●上市町

上市町企画課の確井です。日頃からありがとうございます。

上市町の地域公共交通計画は、今年度、関係者、住民へのアンケートを実施し、来年度から本格的に策定作業に入っていきたいと思います。県の地域交通戦略や、他市町村の計画を参考にしながら、策定に向けて進めていく予定にしております。

そして、お示しの富山県地域交通戦略、大変立派な計画だと思います。特に関係者でともに取り組む施策ということで、自治体・県民の役割を、側面支援から、自らの地域に対する「投資」・「参画」へと舵を切ることが必要と、全くその通りだと思います。

上市町におきまして鉄道、富山地方鉄道の存在は、大変重要な存在であり、上市町

だけではなく、沿線自治体の皆さんにとって大切な存在であろうかと思えます。このような富山地方鉄道のことを考える場合には、「投資」・「参画」というと上市だけの「投資」というと難しいところがありますが、今後は富山市が中心となって、沿線自治体の協議を図っていくことになろうかと思えます。体制を整えば、県においても全面的に応援いただければと思っています。またよろしく願いいたします。

●立山町

立山町です。

立山町については県内 15 市町村中、数少ない地域公共交通計画未策定の自治体でしたが、令和 6、7 年度の 2 か年度かけて策定することになり、令和 6 年度の当初予算に必要経費を計上しているところでございます。また、立地適正化計画についても、立山町が未策定となっておりますが、同様に策定作業に入ることにしております。

地域公共交通計画の策定に当たり、後発の強みといいますか、県の戦略について、特にこの「投資」という単語、あまり行政の計画では聞かない単語だと思いつながら、十分参考にさせていただき、立山町らしい計画を作っていきたいと考えているところでございます。

町営バス、コミュニティバスにつきましては、走るたびに赤字となっております。しかし、面積が広い町であるため、隅々までどのように運行していけば良いか、もはや計画の策定を待たずに、喫緊の課題として現在取り組んでいるところでございます。

年末には小矢部市はじめ、他自治体の取組みなどを拝見させていただきながら、町営バスのあり方を考えているところでございます。それと並行しながらEVバスの導入をしたりしますが、いろいろなところと共存しながら運営していきたいと思っております。

そして、上市町もおっしゃいましたが、富山地方鉄道は忘れてはならない存在でございまして、富山地方鉄道について、我々もやはり「投資」・「参画」にどのように取り組むことができるのか、沿線自治体としてどのようにともに歩んでいけるのかを考える必要があると、町長ともども考えております。

またそのようなところでも、富山県はじめ皆様にはご協力いただきたいと思いますと思っております。今後引き続きよろしく願いしたいと思っております。以上です。

●田中部会長

ありがとうございます。新たに計画策定されるということでまた戦略も参考にさせていただきたいと思えます。

●入善町

入善町キラキラ商工観光課、若林と申します。よろしく願いいたします。

当町も、地域公共交通計画未策定という、数少ない自治体でございますが、私の方

からは、県の地域交通戦略の第6章「関係者でともに取り組む施策」という点で、入善町の状況、あるいは取組みについて少しお話させていただければと思います。

まず当町の地域交通については、町が運営するコミュニティバスとデマンドタクシーの2種類の構成となっております。以前はコミュニティバスを町内全域で8路線運行していましたが、散居村という住宅の立地状況などが起因し、運行経費や利用状況の面で多くの課題あり、一部のバス路線を残して、デマンドタクシーの導入を図ったところでございます。

現在は、あいの風とやま鉄道の入善駅や西入善駅を交通結節点と位置付け、町の南北を結ぶコミュニティバスとあわせ、町内の約70か所の目的地と利用者の自宅を結ぶデマンドタクシーによって、町内全域を網羅する状況となっております。

公共交通に係る具体的な施策としましては、地域の活力・魅力向上のための「投資」という観点では、平成29年に策定した立地適正化計画に基づき、交通結節点の拠点である入善駅前ロータリーの再整備に取り組んだほか、令和6年度、もう1つの交通の交通結節点である西入善駅前広場の再整備を実施する計画としております。

一方、「参画」という点では、65歳以上の免許返納者に対して、公共交通利用券を3か年にわたって9万円分を交付してありまして、地域交通の積極的な利用を促しているところであります。とりわけこのデマンドタクシーの登録者数や、利用人数につきましては、免許返納者を中心に、徐々に増加している状況となっております。

今後は、地域交通の中心となるデマンドタクシーのシステムのさらなる向上を図っていきたいと考えているほか、地域交通の財源の確保や、広域化などといった観点からも、必要に応じて地域公共交通計画の策定についても検討していきたいと考えております。

また県の施策推進と一緒に取り組んで参りたいと考えておりますので、よろしくお願いいいたします。

●朝日町

朝日町商工観光課の小谷野と申します。

朝日町の方では、昨年、令和5年3月に朝日町地域公共交通計画を策定させていただきました。こちらに掲げる理念として「みんなでつくる地域交通」と書かせていただいております。

県の交通戦略の中でも住民の方の「参画」という言葉が明記されておりますが、朝日町の計画の中でも、住民の方ご自身に地域交通を自分ごとにしてもらうことが大事だと書かせていただいております。

今年度はその計画の推進1年目となっておりますが、その中で取り組んできたことを2つだけご紹介させていただきます。

1つ目は、先ほどの滑川市同様、コミュニティバスの車両更新というものがございます。昨年の夏に、住民の方お1人お1人に桜の絵を1枚、書いていただくというイベントを開催しました。こちらのイベントで書いていただいた桜の絵を、バスの車両

にラッピングをしてデザインを完成させるといったものでございます。結果的に 97 枚の絵が集まり、先月からバスの方は運行を開始しております。このようなハード面での住民の方の関わりもとても大事だと思っております。

もう 1 点は議論中のものですが、交通ゲームの開発に取り組んでおります。公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団が提供している「交通すごろく」が公共交通を身近に感じてもらうためのツールとしてございますが、そちらに似た交通ゲームを、町の方で開発しようと思っております。そのゲームの中では、実際に本町で令和 3 年にスタートしたノッカルあさひまちという住民参加型の移動サービスのドライバーになる、バスを使う、タクシーを使うなど、実際の地域交通を利用する没入体験ができるゲームになっております。こちらを通じて地域交通への理解を深めていただいて、お子様から高齢者の方まで、積極的に関わっていただくことが大事と考えております。またよろしく願いいたします。

●田中部会長

ありがとうございます。ゲームというユニークな取組みもご紹介いただきました。

●南砺市

南砺市です。

本市では利用促進に向けた取組みということで、福光駅の駅舎を一昨年改修し、空調を整備しました。さらに今年度、廃校になった学校から椅子と机を持ち込んで、駅舎の中に配置したところ、高校生に利用いただけるようになり、駅を管理していただいている方からも大変よかったと聞いております。南砺市内には、まだ城端駅、福野駅と空調が整備されていない駅がありますが、そのような意味でも今後、これらの駅に空調を整備していきたいと思っております。先ほど新年度の県予算の中に待合環境改善の補助事業があったと思いますが、そのようなものについても、もし活用できるようであれば、今後活用し待合環境の改善に取り組んで参りたいと思っております。

さらに福野駅前の駐車場を広げて、J R の利用促進にも努めていきたいと思っております。その整備についても補助活用の検討をしたいと思っております。

そして、福光駅の東口広場の改修・整備が昨年度終わりましたが、これまでは朝、帰りの通勤、通学に使われるだけで、ほぼ利用されないところだったのですが、ようやく駅前マーケットということで、商工団体と連携した賑わいづくりに向けた取組みが 3 月 16 日にようやく始まろうとしています。そのようなものにも先ほど県から説明のあった補助事業が活用できるように感じました。もし活用できるということであればぜひご紹介いただき、今後も利用促進に努めていきたいと思っております。以上でございます。

●田中部会長

ありがとうございます。駅の有効活用の取組みなどご紹介いただきありがとうございます。

いました。県の新年度予算案にも、いろいろな前向きな取組みがあるため、また連携をとって進めていければと思っております。

●舟橋村

舟橋村の喜田と申します。本日オンラインでの参加となります。申し訳ございません。

舟橋村の方では、地域公共交通計画についていまだ未策定という状況でございます。ただ公共交通政策に関して、全くの未着手という状況ではございません。

高齢者や障がいをお持ちの方にどのような移動手段を提供できるのかということを中心に交通分野ではなく、福祉分野の関係団体と検討を進めているところでございます。

また舟橋村にとっては富山地方鉄道が唯一の公共交通手段となっております。先ほどこから、沿線の自治体の方のご発言にもあった通り、富山地方鉄道が今後もさらに安定的な運営を継続できるよう、沿線自治体はもちろんのこと国、県、皆様方のご理解、ご協力を求めて参りたいと思っております。引き続きよろしく申し上げます。以上です。

●田中部会長

ありがとうございます。以上で市町村の方からそれぞれご意見いただきましたが、大分時間も進んで参りましたがその他の委員の方でご発言どなたかございますでしょうか。

●新庄委員

富山地方鉄道の新庄です。いつもありがとうございます。

この富山県の交通戦略はこれから計画期間に入っていくわけですが、やはり便利にすることだけではなく、実際にそれをいかに利用まで持っていくかということが最も重要なところだと思っております。

実際私もいろいろな方とお話ししますが、その時に公共交通の話題を持ち出すと、皆さんが思った以上に興味がなく、他人事というのが実情のように思っております。このことをしっかり受けとめ、車に変えて公共交通を利用する理由が見当たらないとお考えの方が非常に多いと思いますが、そのような多くの人に対しても、まずは、公共交通利用を、移動の手段としてだけでなくそれ以外でも、自分ごととして関心を持っていただくことにも力を注いでいく必要があると思っております。

例えば公共交通利用を自分のメリットにどのように関係づけるかということ。各々違うと思いますが、資料5の裏にも紹介されていますが、健康的にも経済的にも環境的にも良いということが、いろいろな調査によっても示されているようです。

また、ある自治体のアンケートですが、公共交通の必要性についての83%の方が、「車が運転できなくなったときに利用するために必要」と回答していらっしゃいます。

しかし車の運転ができなくなってから公共交通に切り替えようとしても、体力面での問題や、慣れない路線図、乗り換え、チケットの購入、そのようなものを億劫に感じてしまい、結局出歩く機会を逃してしまいます。そのようなことにならないように、公共交通利用に慣れておくことも大切だということもしっかりお伝えして、もっと公共交通の利用を促すことも、私たち関係者全員の役割だと改めて思っております。

最後になりますが、戦略会議では「投資」と併せて、このような「参画」の重要性も最近特に意見されておりますし、公共交通に関する法制度や、財政措置なども見直され、私どものように経営的に非常に厳しい地方の民間交通事業者であっても、よりよい交通サービスを提供できる環境が整いつつあると期待しております。

交通事業者としても最大限頑張って、役割を果たして参りたいと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。以上です。

4 閉会

●田中部会長

ありがとうございます。具体的なお提案・ご説明ありがとうございます。

公共交通の利用、この資料2にも概要が書いてありますが、基本的な方針・考え方にも、カーボンニュートラルなど社会からの要請に応える趣旨もあります。今ほど新庄委員からの発言で、このノーマイカーウィークのチラシの裏面にも記載がありますが、いろいろなメリットがあります。県も新年度予算でいろいろな機運醸成に取り組みますが、市町村の皆さんにもぜひ一緒に、事業者の方と連携して取り組んでいきたいと思ひます。

その他、委員の方でご発言はございますでしょうか。

大分時間も進んで参りましたため、本日の部会の議事については以上とさせていただきます。委員の皆様方には、前向きな取組みや、ご提案ご発言いただき、本当にありがとうございます。また市町村の委員の方から、特に県の施策との連携、いろいろお話もいただきましたので、またご相談もいただきたいですし、ぜひ県と市町村とともに、うまく進めていければと思ひます。

今後も部会の開催は継続し、事業者・市町村・他の関係の委員の方と、このように意見交換・情報交換を行い、連携を密にして、戦略に盛り込んだ施策などに取り組んでいきたいと思ひますので、ぜひ関係の皆様方には、ご協力いただきたいと思ひます。引き続きよろしくお願ひいたします。